

設立認証申請

特定非営利活動法人縦覧用書類
(令和6年4月26日受付分)

特定非営利活動法人
Metus

縦覧期間

令和6年4月26日(金)から
令和6年5月10日(金)まで

特定非営利活動法人Metus定款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人Metusという。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を兵庫県三田市に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、兵庫県三田市を中心に、地域資源を活用したイベント等の地域活性化に関する事業を行い、まちの資源を最大限活用するとともに、子供達が将来的に帰りたくなるような魅力ある故郷づくりに寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次に掲げる特定非営利活動を行う。

- (1) 社会教育の推進を図る活動
- (2) まちづくりの推進を図る活動
- (3) 農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動
- (4) 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (5) 環境の保全を図る活動
- (6) 子どもの健全育成を図る活動
- (7) 経済活動の活性化を図る活動
- (8) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

(事業の種類)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の特定非営利活動に係る事業を行う。

- (1) イベント企画運営事業
- (2) 建物や自然等の地域資源を再活用した拠点作り事業
- (3) 地域課題の解決を目指すサービス事業
- (4) その他この法人の目的を達成する為の事業

第3章 会員

(会員の種類)

第6条 この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という。）上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人又は団体
- (2) 賛助会員 この法人の目的に賛同し、賛助の意思を持つ個人又は団体

(入会)

第7条 会員の入会については、特に条件を定めない。

- 2 会員として入会しようとするものは、その旨を文書で理事長に申し込むものとし、理事長は正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。
- 3 理事長は、前項のものを入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(入会金及び会費)

第8条 会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

(会員の資格の喪失)

第9条 会員が次の各号のいずれかに該当する場合には、その資格を喪失する。

- (1) 退会の申し出があったとき。
- (2) 本人が死亡し、又は会員である団体が消滅したとき。
- (3) 継続して1年以上会費を滞納したとき。
- (4) 除名されたとき。

(退会)

第10条 会員は、退会しようとするときは、その旨を文書で理事長に提出して任意に退会することができる。

(除名)

第11条 会員が次のいずれかに該当するときは、総会の議決においてを除名することができる。この場合、その会員に対し、議決前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) 法令、定款に違反したとき。
- (2) この法人の名譽をき損し、設立の趣旨に反し、又は秩序を乱す行為をしたとき。

(抛出金品の不返還)

第12条 既に納入した入会金、会費及びその他の抛出金品は、これを返還しない。

第4章 役員及び職員

(種別及び定数)

第13条 この法人に次の役員を置く。

- (1) 理事 3人以上
 - (2) 監事 1人以上
- 2 理事のうち、1人を理事長、1人を副理事長とする。

(選任等)

第14条 理事及び監事は、総会において選任する。

- 2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。
- 3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは3親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び3親等以内の親族が役員の総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。
- 4 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることはできない。

(職務)

第15条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

2 理事長以外の理事は、この法人の業務について、この法人を代表しない。

3 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるとき又は理事長が欠けたときは、その職務を代行する。

4 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。

5 監事は、次に掲げる業務を行う。

(1) 理事の業務執行の状況を監査すること。

(2) この法人の財産の状況を監査すること。

(3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。

(4) 前号の報告をするために必要がある場合には、総会を招集すること。

(5) 理事の業務執行の状況若しくはこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、又は理事会の招集を請求すること。

(任期等)

第16条 役員任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項の規定にかかわらず、任期満了前に、就任後2事業年度が終了した後の総会において後任の役員が選任された場合には、当該総会が終結するまでを任期とし、また、任期満了後後任の役員が選任されていない場合には、任期の末日後最初の総会が終結するまでその任期を延長する。

3 補欠のため、又は増員によって就任した役員任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。

4 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第17条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第18条 役員が次の各号のいずれかに該当するに至ったときは、総会の議決により、これを解任することができる。この場合、その役員に対し、議決する前に弁明の機会を与えなければならない。

(1) 心身の故障のため、職務の遂行に堪えないと認められるとき。

(2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

(報酬等)

第19条 役員には報酬を与えることができる。ただし、役員のうち報酬を受ける者の数が役員総数の3分の1以下でなければならない。

2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。

3 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(職員)

第20条 この法人に事務局長その他職員を置くことができる。

2 事務局長その他の職員は、理事長が任免する。

第5章 総会

(種別)

第21条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の2種とする。

(構成)

第22条 総会は、正会員をもって構成する。

(権能)

第23条 総会は、以下の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散
- (3) 合併
- (4) 事業報告及び決算
- (5) 役員を選任又は解任及び報酬
- (6) 入会金及び会費の額
- (7) 会員の除名
- (8) その他、理事会が総会に付すべき事項として議決した事項

(開催)

第24条 通常総会は、毎事業年度1回開催する。

2 臨時総会は、次の各号のいずれかに該当する場合に開催する。

- (1) 理事会が必要と認め、招集の請求をしたとき。
- (2) 正会員総数5分の1以上から、会議の目的を記載した書面により招集の請求があったとき。
- (3) 第15条第5項第4号に基づき監事から招集があったとき。

(招集)

第25条 総会は、前条第2項第3号の場合を除いて、理事長が招集する。

2 理事長は前条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から10日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法により、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第26条 総会の議長は、その総会において出席した正会員の中から選任する。

(定足数)

第27条 総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第28条 総会における議決事項は、第25条第3項の規定によりあらかじめ通知された事項とする。

2 総会の議事は、この定款に別に定めるもののほか、総会に出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 前2項の規定にかかわらず、理事又は正会員が総会の目的である事項について提案をした場合において、当該提案につき正会員全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、当該

提案を可決する旨の総会の決議があったものとみなす。

(表決権等)

第29条 各正会員の表決権は平等なるものとする。

- 2 やむを得ない理由により総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面又は電磁的方法をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。この場合において、第27条、前条第2項、次条第1項第3号及び第48条の規定の適用については、出席したものとみなす。
- 3 議決すべき事項について特別な利害関係を有する正会員は、その事項について表決権を行使することができない。

(議事録)

第30条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
 - (2) 正会員の現在数
 - (3) 総会に出席した正会員の数（書面表決者、電磁的方法による表決者及び表決委任者がある場合にあつてはその数を付記すること。）
 - (4) 議長の選任に関する事項
 - (5) 審議事項
 - (6) 議事の経過の概要及び議決の結果
 - (7) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が署名・押印又は記名・押印しなければならない。
 - 3 前2項の規定にかかわらず、正会員全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたことによつて、総会の決議があつたとみなされた場合においては、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。
 - (1) 総会の決議があつたものとみなされた事項の内容
 - (2) 前号の事項の提案をした者の氏名又は名称
 - (3) 総会の決議があつたものとみなされた日
 - (4) 議事録の作成に係る職務を行った者の氏名

第6章 理事会

(構成)

第31条 理事会は、理事をもつて構成する。

(権能)

第32条 理事会は、この定款に別に定めるもののほか、次に掲げる事項を議決する。

- (1) 事業計画及び予算並びにその変更
- (2) 理事の職務
- (3) 借入金、その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- (4) 事務局の組織及び運営
- (5) 総会に付議すべき事項
- (6) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (7) その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項

(開催)

第33条 理事会は、次の各号のいずれかに該当する場合に開催する。

- (1) 理事長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の2分の1以上から会議の目的を示して招集の請求があったとき。
- (3) 第15条第5項第5号に基づき監事から招集の請求があったとき。

(招集)

第34条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長は、前条第2号及び第3号の規定による請求があったときは、その日から10日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法により、少なくとも3日前までに通知しなければならない。

(議長)

第35条 理事会の議長は、理事長がこれに当たる。

(定足数)

第36条 理事会は、理事総数の過半数の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第37条 理事会における議決事項は、第34条第3項の規定によりあらかじめ通知された事項とする。

- 2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(表決権等)

第38条 各理事の表決権は平等なるものとする。

- 2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面又は電磁的方法をもって表決することができる。この場合において第36条及び次条第1項第3号の規定の適用については、出席したものとみなす。
- 3 議決すべき事項について特別な利害関係を有する理事は、その事項について表決権を行使することができない。

(議事録)

第39条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
 - (2) 理事の現在数
 - (3) 理事会に出席した理事の数及び氏名（書面表決者又は電磁的方法による表決者にあつてはその旨を付記すること。）
 - (4) 審議事項
 - (5) 議事の経過の概要及び議決の結果
 - (6) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及び出席した理事のうちからその会議において選任された議事録署名人2人が署名・押印又は記名・押印しなければならない。

第7章 資産及び会計等

(資産の構成)

第40条 この法人の資産は、次に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立当初の財産目録に記載された資産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄付金品
- (4) 事業に伴う収益
- (5) 資産から生じる収益
- (6) その他の収益

(資産の管理)

第41条 この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(会計の原則)

第42条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って行うものとする。

(事業年度)

第43条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び予算)

第44条 この法人の事業計画及びこれに伴う予算は、理事長の責任のもと作成し、理事会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第45条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない事由により予算が成立しないときは、予算成立までは、前事業年度の予算に準じ執行することができる。

- 2 前項の規定による執行は、新たに成立した予算に基づくものとみなす。

(予算の追加及び更正)

第46条 予算成立後にやむを得ない事由が生じたときは、理事会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

(事業報告及び決算)

第47条 この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長の責任のもと作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

- 2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

第8章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第48条 この定款を変更しようとするときは、総会において出席した正会員の4分の3以上の議決を経、かつ、法第25条第3項に定める以下の事項に係る定款の変更の場合、所轄庁の認証を得なければならない。

- (1) 目的
- (2) 名称

- (3) その行う特定非営利活動の種類及び当該特定非営利活動に係る事業の種類
- (4) 主たる事務所及びその他の事務所の所在地（所轄庁の変更を伴うものに限る）
- (5) 社員の資格の得喪に関する事項
- (6) 役員に関する事項（役員の定数に係るものを除く）
- (7) 会議に関する事項
- (8) その他の事業を行う場合には、その種類その他当該その他の事業に関する事項
- (9) 解散に関する事項（残余財産の帰属すべき者に係るものに限る）
- (10) 定款の変更に関する事項

（解散）

第49条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
 - (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
 - (3) 正会員の欠亡
 - (4) 合併
 - (5) 破産手続開始の決定
 - (6) 所轄庁による設立の認証の取消し
- 2 前項第1号の事由により解散する場合は、正会員総数4分の3以上の承諾を得なければならない。
- 3 第1項第2号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

（残余財産の帰属）

第50条 この法人が解散（合併又は破産手続開始の決定による解散を除く。）したとき残存する財産は、解散社員総会において選定した者に譲渡するものとする。

（合併）

第51条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の4分の3以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第9章 公告

（公告の方法）

第52条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。ただし、貸借対照表の公告については、内閣府NPO法人ポータルサイトに掲載して行う。

第10章 雑則

（施行細則）

第53条 この定款の施行について必要な事項は、理事会の議決を経て理事長がこれを定める。

附 則

- 1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。
- 2 この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。

理事長 吉満 優樹
理事 穴井 香織
理事 坂口 由枝
監事 伊藤 勢津子

- 3 この法人の設立当初の役員の任期は、第16条第1項の規定にかかわらず、成立の日から令和7年3月31日までとする。
- 4 この法人の設立当初の事業計画及び予算は、この定款の規定にかかわらず、設立総会で定めるものとする。
- 5 この法人の設立当初の事業年度は、この定款の規定にかかわらず、成立の日から令和7年3月31日までとする。
- 6 この法人の設立当初の入会金及び会費は、この定款の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。
 - (1) 正会員 (個人) (団体)
 - ① 入会金 0円 0円
 - ② 年会費 0円 0円
 - (2) 賛助会員
 - ① 入会金 1,000円 10,000円
 - ② 年会費 12,000円 120,000円

役員名簿

特定非営利活動法人Metus

役名	ふりがな 氏名	住所又は居所	報酬の有無
理事長	よしみつ ゆうき		有
	吉満 優樹		
理事	あない かおり		無
	穴井 香織		
理事	さかぐち よしえ		無
	坂口 由枝		
監事	いとう せつこ		無
	伊藤 勢津子		

設立趣旨書

1 趣旨

三田市フラワータウンは昭和57年にまちびらきされ、緑豊かで生活関連施設が整備された住宅団地として成長を遂げ、三田市としては昭和62年から平成8年まで10年連続で人口増加率日本一を記録するほど急速に人口流入がありました。成長期から成熟期へ移行し、フラワータウンも漏れなく、急速に少子高齢化と人口減少が進んでいます。次第に商業施設内の空き区画も出てくるようになりました。

そのような中で、ショッピングセンターサンフラワー内に入居していた核テナントが退店し、跡地を含めた空きスペースについて、何か活用ができないか検討が始まりました。高齢化が進んでいるため年配の方々の居場所づくり、街の次世代を担う子供達の知的好奇心が刺激されるような機会づくりを目指して活動を開始しました。

2022年9月のサンダノオトをきっかけに毎月イベントを開催し、2022年11月から開始したマルシェは2023年12月で第14回を迎えました。

今回、法人として申請するに至ったのは、任意団体として実践してきた活動や事業をさらに地域に定着させ、継続的に推進していくことと、三田市全体に活動を広げていくために他の団体や組織とも連携を深めていく必要がある等の観点から、社会的に信用が高い公的な組織にすることが良いと考えました。また、当団体の活動は営利目的ではなく、街を次世代へ繋ぐためにコミュニティ機能の強化に寄与するような取り組みを行う点から、特定非営利活動法人格を取得するのが最適であると考えました。

法人化することにより、組織を発展させることができ、将来的に三田市内外のまちの活性化に関わるさまざまな事業を展開できるようになり、広く貢献できると考えます。

2 申請に至るまでの経過

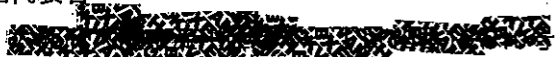
2022年9月	サンダノオト（音楽イベント）第1回開催
2022年10月	サンダノオト第2回開催
2022年11月	さんふらマルシェ（マーケット）第1回開催
2022年12月	さんふらマルシェ第2回開催
2023年1月	さんふらマルシェ第3回開催
2023年2月	さんふらマルシェ実行委員会発足
2023年2月	さんふらマルシェ第4回開催
2023年3月	さんふらマルシェ第5回開催
2023年4月	さんふら火曜日（マーケット）の毎週開催を開始
2023年4月	さんふらマルシェ第6回開催
2023年5月	さんふらマルシェ第7回開催
2023年6月	さんふらマルシェ第8回開催
2023年7月	さんふらマルシェ第9回開催
2023年8月	さんふらマルシェ第10回開催
2023年9月	さんふらマルシェ第11回開催
2023年9月	会員間で法人化の意思確認

2023年10月 さんふらマルシェ第1.2回開催
2023年11月 さんふらマルシェ第1.3回開催
2023年12月 設立総会開催
2023年12月 さんふらマルシェ第1.4回開催

2023年12月20日

特定非営利活動法人Metus

設立代表者


吉満 優樹

初年度（令和6年度）事業計画書

特定非営利活動法人Metus

1. 基本方針

初年度は、子供達をターゲットとしたイベント企画運営を継続するとともに、公共施設や遊休不動産を活用してハード面を活用した事業への取り組みを開始する。

将来的には、現在市内に居住する子供世代が、将来的に「帰って来たい」と思うまちの存続に繋がると考えるためである。

具体的には下記項目に取り組んでいく。

- ・ イベント企画運営事業は、令和5年度にも実施した「さんふらマルシェ（月1回、ニュータウン内商業施設でのマーケット）」「庭楽育フェスタ（年2回農村地帯でのイベント）」の各イベントを継続させると共に、仮に依頼があれば受託する。また、道路や公園の活用に取り組む。自らの団体が公共施設の活用を実践することで、広く一般利用が広まることを目指す。
- ・ 建物や自然等の地域資源を再活用した拠点作り事業は、三田市内の旧市街地における遊休不動産の活用を目指す。初年度はイベント等を通して活用の可能性を探る。
- ・ 地域課題の解決を目指すサービス事業は、農村部の耕作放棄地の活用について、可能性を探るための公開ミーティングを予定。

2. 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	プロジェクト内容 (具体的な事業内容)	実施時期・回数	実施場所	受益対象者及び予定人数	収益見込 (千円)
(1) イベント企画運営事業	さんふらマルシェ (月1回を目安に商業施設内で実施するマーケットイベント)	毎月第1日 曜日(目安)	三田市フラワータウン	三田市周辺住民 各回約300名	700
	庭楽育フェスタ (年2回を目安に民間企業敷地内で実施するマーケットイベント)	5月 10月	三田市末	三田市周辺住民 各回約500名	600
	パークマーケット(仮) (公園の一部を活用したマーケットイベント)	4月 9月	三田市フラワータウン	三田市周辺住民 各回約100名	200
	駅前広場マーケット(仮) (駅前空間を活用したマーケットイベント)	6月 11月	三田市フラワータウン	三田市周辺住民 各回約100名	200
(2) 建物や自然等の地域資源を再活用した拠点作り事業	子供向け本やおもちゃのある居場所作りに向けたイベント開催	8月	三田本町駅周辺	三田市周辺住民 約500名	0

(3) 地域課題の解決を目指すサービス事業	耕作放棄地の活用を探るためのミーティング	12月	三田市広野地区など 三田市周辺住民 各回約50名	0
(4) その他 この法人の目的を達成する為の事業				
定款第5条第1号～第3号には規定されていないものの、法人として実施が必須となった事業について、定款第3条及び第4条に規定する範囲内において、単年度又は試験的に限り実施する。				

3. 事業実施体制

(1) 会議に関する事項

- ①通常総会 6月
- ②理事会 年2回

(2) 事務局体制

事務局長：吉満 優樹、事務局スタッフ：穴井 香織、坂口 由枝

令和7年度 事業計画書

特定非営利活動法人Metus

1. 基本方針

2年目の令和7年度は、子供達をターゲットとしたイベント企画運営を継続するとともに、公共施設については利用頻度を高め、遊休不動産については拠点作りに取り組む。

具体的には下記項目に取り組んでいく。

- ・イベント企画運営事業は、令和5年度にも実施した「さんふらマルシェ（月1回、ニュータウン内商業施設でのマーケット）」「庭楽育フェスタ（年2回農村地帯でのイベント）」の各イベントを継続させると共に、仮に依頼があれば受託する。また、道路や公園の活用に取り組む。自らの団体が公共施設の活用を実践することで、広く一般利用が広まることを目指し、継続実施。
- ・建物や自然等の地域資源を再活用した拠点作り事業は、三田市内の旧市街地における遊休不動産を活用し、拠点化を目指す。
- ・地域課題の解決を目指すサービス事業は、農村部の耕作放棄地の活用について、可能性を探るためのイベントを開催予定。

2. 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	プロジェクト内容 (具体的な事業内容)	実施時期・回数	実施場所	受益対象者及び予定人数	収益見込 (千円)
(1) イベント企画運営事業	さんふらマルシェ (月1回を目安に商業施設内で実施するマーケットイベント)	毎月第1日 曜日(目安)	三田市フラワータウン	三田市周辺住民 各回約300名	700
	庭楽育フェスタ (年2回を目安に民間企業敷地内で実施するマーケットイベント)	5月 10月	三田市末	三田市周辺住民 各回約500名	600
	パークマーケット(仮) (公園の一部を活用したマーケットイベント)	4月 9月	三田市フラワータウン	三田市周辺住民 各回約100名	200
	駅前広場マーケット(仮) (駅前空間を活用したマーケットイベント)	6月 11月	三田市フラワータウン	三田市周辺住民 各回約100名	200
(2) 建物や自然等の地域資源を再活用した拠点作り事業	子供向け本やおもちゃのある居場所作り	8月	三田本町駅周辺	三田市周辺住民 約500名	0

<p>(3) 地域課題の解決を目指すサービス事業</p> <p>耕作放棄地の活用を探るためのイベント</p> <p>12月</p>	<p>三田市広野地区など</p> <p>三田市周辺住民 各回約50名</p>	<p>0</p>
<p>(4) その他 この法人の目的を達成する為の事業</p> <p>定款第5条第1号～第3号には規定されていないものの、法人として実施が必須となった事業について、定款第3条及び第4条に規定する範囲内において、単年度又は試験的に限り実施する。</p>		

3. 事業実施体制

(1) 会議に関する事項

- ①通常総会 6月
- ②理事会 年2回

(2) 事務局体制

事務局長：吉満 優樹、事務局スタッフ：穴井 香織、坂口 由枝

令和6年度活動予算書

成立の日から令和7年3月31日まで

(単位：円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	0	
賛助会員受取会費	0	
.....受取会費	0	0
2. 受取寄付金		
受取寄付金	0	0
3. 受取助成金等		
受取地方公共団体助成金	400,000	
受取民間助成金	400,000	
.....		800,000
4. 事業収益		
イベント企画運営事業	1,700,000	
建物や自然等の地域資源を再活用した拠点作り事業	0	
地域課題の解決を目指すサービス事業	0	1,700,000
5. その他収益		
受取利息	0	
雑収益	0	0
経常収益計		2,500,000
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給与手当	960,000	
法定福利費	153,600	
人件費計	1,113,600	
(2) その他経費		
講師謝金	0	
消耗品費	0	
印刷費	240,000	
通信費	0	
保険料	0	
会場費	0	
会議費	0	
その他経費計	240,000	
事業費計		1,353,600
2. 管理費		
(1) 人件費		
給与手当	600,000	
法定福利費	96,000	
役員報酬	50,000	
人件費計	746,000	
(2) その他経費		
消耗品費	10,000	
印刷費	100,000	
通信費	0	
旅費交通費	0	
光熱水費	0	
保険料	0	
会議費	0	
租税公課	0	
その他経費計	110,000	
管理費計		856,000

經常費用計			2,209,600
当期正味財産増減額			290,400
設立時正味財産額			0
次期繰越正味財産額			290,400

令和7年度活動予算書

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

(単位：円)

科 目		金 額	
I 経常収益			
1.	受取会費		
	正会員受取会費	0	
	賛助会員受取会費	0	
受取会費	0	0
2.	受取寄付金		
	受取寄付金	0	0
3.	受取助成金等		
	受取地方公共団体助成金	400,000	
	受取民間助成金	400,000	
		800,000
4.	事業収益		
	イベント企画運営事業	1,700,000	
	建物や自然等の地域資源を再活用した拠点作り事業	0	
	地域課題の解決を目指すサービス事業	0	1,700,000
5.	その他収益		
	受取利息	0	
	雑収益	0	0
	経常収益計		2,500,000
II 経常費用			
1.	事業費		
	(1) 人件費		
	給与手当	960,000	
	法定福利費	153,600	
	人件費計	1,113,600	
	(2) その他経費		
	講師謝金	0	
	消耗品費	0	
	印刷費	240,000	
	通信費	0	
	保険料	0	
	会場費	0	
	会議費	0	
	その他経費計	240,000	
	事業費計		1,353,600
2.	管理費		
	(1) 人件費		
	給与手当	600,000	
	法定福利費	96,000	
	役員報酬	50,000	
	人件費計	746,000	
	(2) その他経費		
	消耗品費	10,000	
	印刷費	100,000	
	通信費	0	
	旅費交通費	0	
	光熱水費	0	
	保険料	0	
	会議費	0	
	租税公課	0	
	その他経費計	110,000	
	管理費計		856,000
	経常費用計		2,209,600
	当期正味財産増減額		290,400
	前期繰越正味財産額		290,400
	次期繰越正味財産額		580,800